

地域のもりから学ぶ森林づくり 2015

「森林の生物多様性を学ぶ」 第四回森林教室

第4回森林教室は、9月14日（月）、定山溪中学校の生徒を対象に石狩森林管理署管内の奥定山溪国有林（2115林班）で実施しました。



今回は、『定山溪のもりを育てる』をテーマに、同地周辺で稚樹を採取し、1年間中学の校内で育て、再び林内に返し、森林の持つ機能を更に発揮させることを目的としています。

初めに、ふれあいセンターの藤生所長から、「今日実施することの目的や意味を考えながら森林の必要性を学んで下さい。」と挨拶があり森林教室が始まりました。

まずは、カミネッコンの組み立てからです。

2・3年生は、経験済みなので手際よく組み立てていきます。

1年生は、今回初めての作製なので、丁寧に組み立て方を伝えながら作製していきました。



みんな組み立ったところで、各々メッセージやイラストを描きます。

次に、中学校で育ててきたミズナラやケヤマハンノキ、ダケカンバ、コシアブラ、エゾマツ、アカエゾマツなどの苗木をカミネッコンに入れポット苗木の完成です。



完成したポット苗木を奥定山溪の国有林に運びました。 バスで移動中、森林の炭素固定について学びました。

地球温暖化に最も大きい影響を及ぼす温室効果ガスである二酸化炭素(CO₂)、このCO₂を減らす取り組みの一つとして、森林のバイオマス(幹や根等の樹体)にCO₂を封じ込める方法があります。



直径10cm、厚さ3cmの木材を教材として用い、これから樹高や全体積等を計算し、年輪も数え、その木の樹齢と樹体をイメージし、その樹体に固定している炭素量を計測してみました。

また、その樹体を燃焼した場合に排出される二酸化炭素量も計算してみました。

全国の森林にすると、どれほどの炭素を固定しているのでしょうか？

現地に到着し、学校で作製したポット苗木を植えました。

毎年、植栽木の成長量を調査しており、今回植えた植栽木も樹高を測りました。



その後、植栽地の周辺で稚幼樹の採取を行い、ミズナラやハリギリ、イタヤカエデ、ダケカバ等を採取して、学校へ持ち帰りました。

再び、山に返す日まで、学校で大事に育てて下さい。



